

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2023年2月15日(水)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2023年2月15日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【3号機使用済み燃料プール補給水ライン止め2次弁上蓋のフランジ部からの漏えいについて】 当社社員が、3号機使用済み燃料プール冷却浄化系の点検作業の復旧操作において、3号使用済み燃料プール補給水ライン止め2次弁上蓋のフランジ部から少量のろ過水漏えいを確認。 当該弁の隔離処置を実施し、ろ過水漏えいは少量から微量に減少したことを確認。 隔離処置により通常の補給水ラインが使用できないが、燃料プールへの補給については非常用注水ラインにて実施可能なため、問題なし。 今後、当該弁のフランジ部を点検予定。</p>	GⅢ	2月9日
2	<p>【共用プール設備入口計装用空気圧縮機除湿装置の動作不良について】 当社社員が、免震重要棟の制御盤にて、運用補助共用施設「共用プール設備入口計装用圧縮空気圧力低」警報の発生を確認。 現場調査の結果、計装用空気圧縮機除湿装置本体からの排気音が通常より大きいことから、空気漏えいの可能性があるかと判断。 計装用空気圧縮機除湿装置を隔離してバイパス運転としたところ、計装用空気圧縮機の圧力が通常値まで復帰したことを確認。 当該の除湿装置前段に設置されている空気圧縮機が除湿機能を有していること、また、過去のバイパス運転実績により、直ちに系統への影響はないと考えている。 復旧までの間は、監視強化し、今後、当該除湿装置の点検および動作不良の原因調査を実施予定。</p>	GⅢ	2月9日
3	<p>【大型機器除染設備後段スクリーコンベア(A)の中間軸受シャフト破損について】 協力企業作業員によるタンク除染作業中に、「後段スクリーコンベア(※)(A)非回転異常」の警報が発生し除染装置が自動停止したことを確認。 現場調査の結果、スクリーコンベア(A)の中間軸受シャフトが破損していることを確認。 タンク除染作業については、軸受け交換が10日間程度で可能なため、作業計画に影響なし。 今後、破損した軸受の交換および破損原因の調査を実施予定。</p> <p>※:スクリーコンベア:回転式の除染剤供給装置</p>	GⅢ	2月13日